Business now（ビジネス） scene#15

㈱中国シール印刷（岡山市北区）

デジタル印刷機を付加したビジネスモデル確立へ

セイコーエプソン「SurePress」導入で提案型営業推進

ラベルコンテストで経産大臣賞など受賞
チャレンジが社員の意識向上に

㈱中国シール印刷（岡山市北区北長瀬本町、西山隆三郎社長、☎086・254・2324）は1932年（昭和7年）4月1日、活版印刷を営む「西山実貴印刷」として創業した。やがて、事業としてラベル印刷に携わるようになり、現在の社名へと変更。企業規模を順調に拡大している。ラベル製造事業を展開するにあたり、同社が目指しているのは「人材育成」と「新規事業の推進」。そのために近年は、デジタル印刷機についても昨年9月、機の双方を設備するなど、常に変革への取り組みにチャレンジしている。同社が目指すビジネスの在り方についてレポートする。（内田）

同社は現在、従業員80人で、うち印刷オペレーターは20人、営業担当は本社に11人、東京営業所に5人の計16人。

西山社長が経営を引き継いだのは91年。就任に当たり、早急に取り組んだのは人材育成。西山社長は「当時の社風を大きく変えたいという意識がありました。そのために、社員の若返りを果たす一方で、人材の育成を目指しました。社員が自分の仕事に誇りを持ち、高い意識をもって日々の業務をこなせるようにするのが、私の役目と考えています」と話す。

西山 隆三郎社長

ラベルコンテストで「人材育成」推進

その方針は、現在でも継続されている。同社は毎年、全日本シール印刷協同組合連合会が主催する「シールラベルコンテスト」、ならびに世界の団体によって行われる「世界ラベルコンテスト」に対し、作品応募を積極的に手がけており、昨年は経済産業大臣賞を獲得するなど、輝かしい成績を収めている。

同社がコンテストに応募するのは、オペレーターの技術力向上はもとより、業務へのモチベーションを高めるといった目的がある。

西山社長は「コンテストで受賞することにより、社員が『当社の印刷したラベルが世界で認められた』ということを家族、特に子どもたちに伝えることができたならば、社員のさらなるやる気へとつながるのでは。コンテストの受賞とは、もちろん印刷オペレーターの技術力もありますが、それを支えたすべての社員に与えられたという意味であり、全員の総力によって獲得できたと私は考えています。そして、コンテスト応募へのチャレンジというチャンスを若い世代に与えることにより、企業全体のスキルとモチベーションのアップに役立てたい」とコメントする。

ずらりと並ぶコンテストのトロフィーの数々は、西山社長が就任当初から力を注ぐ「人材育成」の歴史にほかならない。

新展開の核となるデジタルとフレキソ導入

同社が受注するラベルの仕事は、食品や飲料をはじめ文具や工業分野など、実に幅広い。中でも教材関連の受注が好調で、売上は前年を上回った。同社の説明によると、得意先との取引は30年以上にわたっており、信頼関係で結ばれている。

しかし近年は、同分野でも価格競争が厳しさを増しており、ラベル印刷を手がける企業として「これまで培った技術を主軸に据えた上で、さらに将来のビジネスにつながるような新しい設備が欲しい」（西山社長）との考えから、まったく方向性の異なる設備投資を画策。ラベルエキスポの視察ツアーや組合の技術研修会などに参加し、国内外のラベル印刷機や加工機に関する情報収集を精力的に行った。

活動の中で、西山社長が注目したのは2種類のラベル印刷機。一つは海外製のUVフレキソ印刷機「ニールピーター」、そしてもう一つが日本の水性IJ型デジタル印刷機「SurePress L-4033A」である。後者は昨年9月に導入し、担当オペレーターの手によってノウハウの蓄積が順調に進み、本稼働している。

同社の設備状況は、間欠オフセット機ならびにオフセット機をはじめとしたコンビネーション機のほか、凸版間欠機や凸版輪転機、半輪転機、平圧機などであり、これらのコンベンショナルな機種を用いることで、高品質ラベルの製造を手がけている。そのため、今回のデジタル印刷機導入は、同社にとっても新たなチャレンジといえる。

SurePress導入の理由について、西山社長は「ラベル印刷技術の変化は著しく、デジタル化の潮流は急速に進歩しており、それに対応することは不可欠と感じていました。とはいえ、当初の目的は〝校正機〟としてのデジタル機の導入を考えており、デジタル印刷機までは考えていなかったのです」と笑う。

そのような中、ラベルエキスポ視察ツアーで出会ったのが同機種。デモを通じて機能を知ることにより「校正機と生産機を兼用できると気付きました。当社では長年にわたって、提案型の営業を推進していますが、活動をスムーズにこなすためにも、ラベルサンプルを出力できる校正機を必要としていたのです。そのような思惑の中で出会った当機種は、サンプル出力としての機能はもちろん、生産機としても十分活用できることから、導入を決定しました」（西山社長）。

すなわちSurePressにおける同社の活用方法は「校正機」と「生産機」であり、従来のコンベンショナル機メーンの生産方法に〝デジタル印刷機〟をプラスすることで、同業他社との差別化につながったといえる。

「校正機」としては、取引先に対し、実際にラベルのサンプルを商品に貼り付けてプレゼンに活用。その際、ラベルのデザインはそのままに、色だけを変更したパターンを複数出力することが可能となる。そして、顧客が複数サンプルの中から選択したラベルを改めて生産する。SurePressが「校正機」として優れているのは、水性インクジェット方式のため、ラベルの表面基材を選ぶことなく印刷できる点。UVの場合、フィルム系ラベルでは、基材によってプレコーティングが必要となるケースもあるが、同機種はそのような工程が必要ないため、プレゼンの際に大きな戦力となる。

もっとも、このような活用方法ならば、従来の校正機やプリンタなどでも対応できるため、あえて高価なデジタル印刷機を活用する必要などないように思われる。しかし、ここからがSurePressの真骨頂。サンプルでOKをもらい、いざコンベンショナル機で本生産の段階になった時、受注枚数次第によっては、そのまま「生産機」として活用できることから、本機生産の色再現が少しでも異なった場合、刷り直しなどのトラブルに発展するケースがあります。それを防ぐために、印刷オペレーターはサンプルの色に近づける努力をしなければなりませんが、その作業は楽なものではありません。当社は先ほど申し上げたとおり、オペレーターのスキル向上に取り組んでおり、十分対応できる能力を持っていると自負していますが、それでもヤレなどの資材と作業時間の双方でロスが生じてしまいます。しかし、デジタル印刷機は、サンプルデータに基づいて印刷するだけなので、そのようなトラブルを回避することが可能になるのです」と説明する。

もちろん、生産機単独としても活用している。具体的には、地元・岡山で展開しているメーカーのキャンペーンラベルや、店舗内で装飾されるディスプレーとしてのステッカーなど。

同社では「提案次第で、新たな需要を獲得できると見込んでいます。特に可変情報の用途は、今後のラベルにとってさらに付加価値を生み出すとにらんでいます。デジタル印刷機は、そのような用途にも対応できるため、SurePressの有効活用を模索したい」（西山社長）としている。

デジタル機の課題克服に独自の取り組み展開

しかし、デジタル印刷機を使いこなすためにはいくつかの課題もあり、同社ではそれを克服するための努力も怠っていない。

一般的にラベル業界では、デジタル印刷機の課題として「後加工機」が挙げられるケースが少なくない。しかし、同社ではそれよりも「デジタル印刷機オペレーターの育成環境」を掲げる。

デジタル印刷機はデジタルデータに基づいて印刷を行う構造のため、どちらかと言えばMacオペレーターに近いという見方がある。しかし、ラベルに印刷するといった点では、表面基材や粘着剤、剥離紙の知識を必要とするほか、抜きやラミネートなどの技術ノウハウも得ていなければならず、これらはいずれも印刷オペレーターが長年の経験によって身につけるもの。いわば双方の知識と経験を持つ必要がある。

これに対して、西山社長は「そのような役目を1人に背負わせるのは、あまりにも負担が大きい。仮にその担当者の努力によって知識と経験が身に付いたとしても、何かのトラブル…例えば病気などで長期休暇となってしまった場合、デジタル印刷機を稼働させることができなくなってしまう可能性があるのです。これでは、デジタル印刷機の機能を有効活用できません。そこで当社は、課題を克服するため、3人体制でSurePressを担当しています。いずれも印刷やデザイン、製版の各部門から選ばれた社員であり、それぞれが長所をもってフォローし合う、いわば『チーム』。これならば、何かの理由で1人が抜けたとしても他の2人がそれを補うことができ、さらに後輩たちにノウハウを伝えることができます」と話す。

3人の『デジタル印刷機チーム』は、研修の段階から常に行動をともにし、互いがこれまで培った知識や経験でカバーしながら、現在も積極的にノウハウの蓄積に努めている。

また、SurePressの課題として「印刷スピード」が挙げられるが、「当社の場合、もともと校正機との兼用で考えていたため、気になりません。むしろコンベンショナル機に不可欠な製版工程や、調子出しまでのタイムロスがないことを考慮すると、トータルの作業時間にはそれほど大きな差が無いように感じます。仕事内容によってデジタル印刷機とコンベンショナル機を使い分けることで、十分にクリアできるのでは。コンベンショナル機でも、ロットや色の再現性などによって、凸版間欠機やオフセット機などへ仕事を振り分けるように、デジタル印刷機が最も有効活用できる仕事を与えるべき。また、抜き加工に関しては、米アレンデータグラフ製のカッティングプロッタを導入していますが、機能には、ある程度満足しています。むしろ、当社がSurePressを稼働させていて疑問に感じた点を、すぐにメーカーへフィードバックすることにより、今後の改良につながると考えています」とコメントする。

今後の展望について、西山社長は「SurePressを生産機として活用できる体制を推進することで、ラベル業界の〝オンリーワン企業〟を目指したい。これからは、価格競争に左右されないような付加価値の高いラベル製造を目指し、環境対応製品としてのラベルや、点字ラベルなどに代表されるユニバーサルデザインにもチャレンジしたいですね。また経営者としては、社員が常に高い意識をもって仕事に取り組めるような社内環境を整えたい。そのためにも、設備投資を積極的に推進し、企業として歴史を刻み続けたいと考えています。今後は、オリジナリティーに満ちた企業を目指したい」と語った。

県内でも長い歴史を誇る同社。ユニークな事業展開を推進

ずらりと並ぶコンテスト受賞トロフィー。社員の意識も向上

デジタル印刷機の印刷サンプル。ノウハウ蓄積に取り組む

昨年９月にデジタル印刷機「SurePress」を導入

抜き加工はアレンデータグラフのカッティングプロッタを活用

EPSON
EXCEED YOUR VISION

実績、続々。
成果、着々。

小ロット対応、短納期、高画質が、業績に直結。
インクジェットデジタルラベル印刷機「SurePress」

Inkjet Digital Label Press
SurePress L-4033A
シュアプレスのホームページ http://surepress.jp

製品に関するお問い合わせは シュアプレス専用ダイヤル
03-5321-9733
【受付時間】9:00～17:30 月～金曜日（祝日・弊社指定休日を除く）　エプソン販売株式会社

製品は日野デモルーム（東京都）でご覧頂けます。要予約。詳しくはシュアプレス専用ダイヤルまで。

＊この広告に記載の仕様、デザインは技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

LABEL FORUM JAPAN 2012 に出展いたします。
SurePress L-4033A のすべてをご覧いただけます。
● 印刷デモンストレーション　● 導入企業様事例紹介
● 後加工機との連携ソリューション　● SurePress ならではのデジタル機使いこなし実例紹介　など多数
日程：2012年7月26日～27日　会場ブース番号（36-40）

エプソン販売株式会社　セイコーエプソン株式会社